

学 位 論 文 要 旨

氏 名 太 田 満

題 目 小学校における多文化的歴史教育の理論と授業開発

学位論文要旨（和文2,000字又は英文1,000語程度）

本研究の目的は国内外の多文化的歴史教育研究とその実践，とりわけJ・A・バンクスの多文化教育の理論を手がかりに，多文化的歴史教育の理論構築とそれに基づく授業開発を行うことである。

多文化的歴史教育とはバンクスの多文化教育の理論によってつくられた歴史カリキュラムのことであり，その理論に基づいて開発された歴史授業のことを指す。バンクスの理論とは，多文化教育の理念に基づくカリキュラム改革の方法である。それは，貢献アプローチ，付加アプローチ，変換アプローチ，社会的行動アプローチからなる。本研究では，変換アプローチ（カリキュラムの原理やパラダイム，そして基本的な前提を変え，生徒が異なった視点から概念や論点，テーマ，問題を考察することを可能にする方法）と，社会的行動アプローチ（変換アプローチをさらに発展させ，意思決定し社会問題を解決するのに必要な能力を身につけさせる方法）に着目する。社会がグローバル化し，教室が多国籍化・多民族化する中，多様性が尊重され公正で平等な社会—多文化共生社会—を築くためには，変換アプローチや社会的行動アプローチに基づく歴史教育が必要と考える。

本論文の構成は以下の通りである。第一部では多文化的歴史教育の理論について論じる。第一章では多文化的歴史教育の基本原則について述べる。第二章，第三章，第四章では，多文化的歴史教育の授業構成のための実践分析を行う。第五章では，変換アプローチおよび社会的行動アプローチの授業構成について述べる。続いて第二部では，多文化的歴史教育の授業開発について論じる。第六章では，小学校社会科における多文化的歴史教育のカリキュラム構成について論じる。第七章以下は，第六章で示したカリキュラム試案の中の単元を取り上げ，授業モデルを開発する。第七章では，変換アプローチに基づく歴史授業モデル—中学年歴史単元「神戸南京町の年中行事と歴史」—を開発する。第八章では，変換アプローチに基づく歴史授業モデルⅡ—第6学年歴史単元「散文説話から考えるアイヌ史」—を開発する。第九章では，社会的行動アプローチに基づく歴史授業モデルⅢ—中学年歴史単元「昔の道具から考える男女平等」—を開発する。

本研究の主たる成果は，以下の三点にまとめることができる。第一に，多文化的歴史教育の目標・内容・方法・評価の基本原則を明らかにしたことである。多文化的歴史教育が目指すのは，多文化的資質・能力であるという仮説のもと，その下位項目を「自尊感情と他者への共感」，「多様性の理解」，「構築主義的な見方への転換」，「不平等社会の可視化」，「多文化共生社会を創る上での価値の検討」とした。そしてそのような多文化的資質・能力が育成されるための内容，方法，評価の諸原理を示し，多文化的歴史教育の土台を明らかにしたことが第一の成果である。

第二に、小学校社会科における多文化的歴史カリキュラム試案を示したことである。先行研究の課題を洗い出すプロセスの中で、多文化的歴史カリキュラムの開発には、学習指導要領が示す内容との関連性、中学年歴史単元の内容、追究する属性（マイノリティ）、時間数、変換アプローチを実現する問い、の視点が必要であることを見出した。その上で小学校社会科における多文化的歴史カリキュラム試案を示した。本試案は筆者の現勤務校の状況に合わせて作成したという点で全国のどの小学校でも通用するものではない。だが、（1）多文化共生に関連する内容を（教科書の）各単元の中から探す、（2）多文化カリキュラムのキー概念をおき取り上げる属性を考える、（3）単元の配列を考える、（4）変換アプローチを実現する問いと事例を考える、といったカリキュラムの作成手順については汎用性をもっている。多文化的歴史教育カリキュラムの開発方法を提議したことが第二の成果である。

第三に、変換アプローチに基づく授業構成の原理を明らかにしたことである。これまで変換アプローチは、カリキュラムレベルで論じられるか、特設単元の開発という形で提案されるかのどちらかであり、実践的検証が十分になされていないという課題を有していた。本研究では実践のフィルターにかけ、課題とその克服方法を明らかにする作業を通して、変換アプローチに至る授業過程の仮説を見出した。バンクスの理論を援用し修正した形での変換アプローチに基づく授業構成を明らかにしたことの意義は二つある。一つは、その先にある社会的行動アプローチの授業構成を考える道筋を得たことである。二つは、日本でも実現可能な多文化的歴史教育の形を示したことである。学習指導要領によって内容が定められ、年間学習計画（カリキュラム）を自由に変えることのできない学校事情があるのなら、カリキュラム改革によって多文化的歴史教育を実現していくことは容易ではない。まずは単元レベルで多文化的歴史教育の授業を開発し実践していくことの方が現実的であり、その積み重ねがカリキュラム改革につながると考える。